

ビワマス放流種苗の安定的量産試験

田中秀具・上野嘉之*)

◆背景・目的

ビワマス栽培漁業効率化研究の一環として、現有施設を活用しての効率的な種苗生産を推進するため、昨年度実施した高密度種苗生産試験の結果をもとに安定的飼育の可能性を追究する。

◆成果の内容・特徴

毎年、滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)が、ビワマスの放流用種苗生産事業を実施している。本試験は平成16年度醒井養鱒場生産分を対象に実施した。

試験は、当场施設B棟の池(大きさ:1m×10m×0.65m(水深))4面で、生産密度1万尾/m²(容積密度15,384尾/m³)の同一条件での高密度安定生産を目標とした。供試魚は、天然親魚から採卵後、県漁連高島事業所(～発眼)、醒井養鱒場(発眼～)で浮上させたものである。試験期間は浮上(1月)から、放流(3月下旬)までの約70日間である。供試卵数、放養尾数の他、飼育結果を表1.に示す。

いずれの区においても生残率は90%以上と良好であった。成長は各区の平均体重は飼育終了時点では、飼育日数の少ないB-1を除いて目標体重2gに達した。即ち、飼育期間の長短を考慮すれば、体長・体重とも池間には差がなかった。しかし生産密度は平均8892尾/m²、最大9778尾/m²と目標を下回った。発眼卵からの生残率も82.7%と良好であり、密度が目標を下回った原因は、卵の確保が十分でなかったことによるものと判断できる。

◆成果の活用・留意点

本試験の飼育成績は、ビワマスの2gサイズまでの種苗生産が、当場の養成アマゴと同密度・同一手法で可能であることを示す。

表1. 飼育結果

飼育池	発眼卵数	放養尾数	生残尾数	生残率(%)	飼育日数	平均体重(g)	平均体長(mm)
B-1	98,000	81,940	76,130	92.91	59	1.72	47.69
B-2	113,000	90,400	84,110	93.04	63	2.02	50.78
B-3	116,000	102,500	97,670	95.29	70	2.15	52.25
B-4	103,000	101,480	97,780	96.35	73	2.21	52.36
TOTAL	430,000	376,320	355,690	94.52	66	2.02	50.77

*) 所属: 滋賀県漁業協同組合連合会醒井事業場